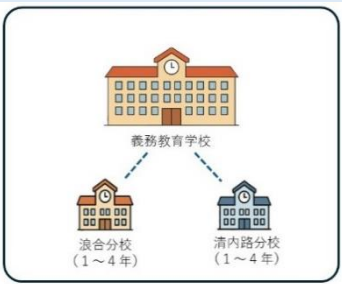


9月2日、学校のあり方検討委員会から最終答申骨子案が示されました。現在まで検討されてきた学校のあり方具体案(A案・B案・C案)と提言を整理して、概要版をお届けします。

Q1 A・B・C案の特徴と評価は？

	A案	B案	C案
			
学校数	施設分離型義務教育学校 小学校5校 中学校1校	義務教育学校本校 浪合サテライト校(1～4年) 清内路サテライト校(1～4年)	義務教育学校1校
令和13年度児童生徒数(見込)	第一小 101名 第二小 43名 第三小 33名 浪合小 11(+16)名 清内路小 24名 阿智中 139名	義務教育学校 1～9年 330(+8)名 浪合サテライト校 1～4年 4(+8)名 清内路サテライト校 1～4年 17名	義務教育学校 1～9年 351(+16)名
総合評価	地域に根ざした温かみのある小規模教育の継続は可能ですが、制度的および財政的な持続性には課題があります。	段階的な移行モデルとして一定の柔軟性がありますが、教育格差や運用の煩さや、財政効率の面において課題が残ります。	教育の質、制度の柔軟性、地域との連携、財政的な持続性において、高い効果が期待されます。ただし、移行にあたっては丁寧な配慮が求められます。

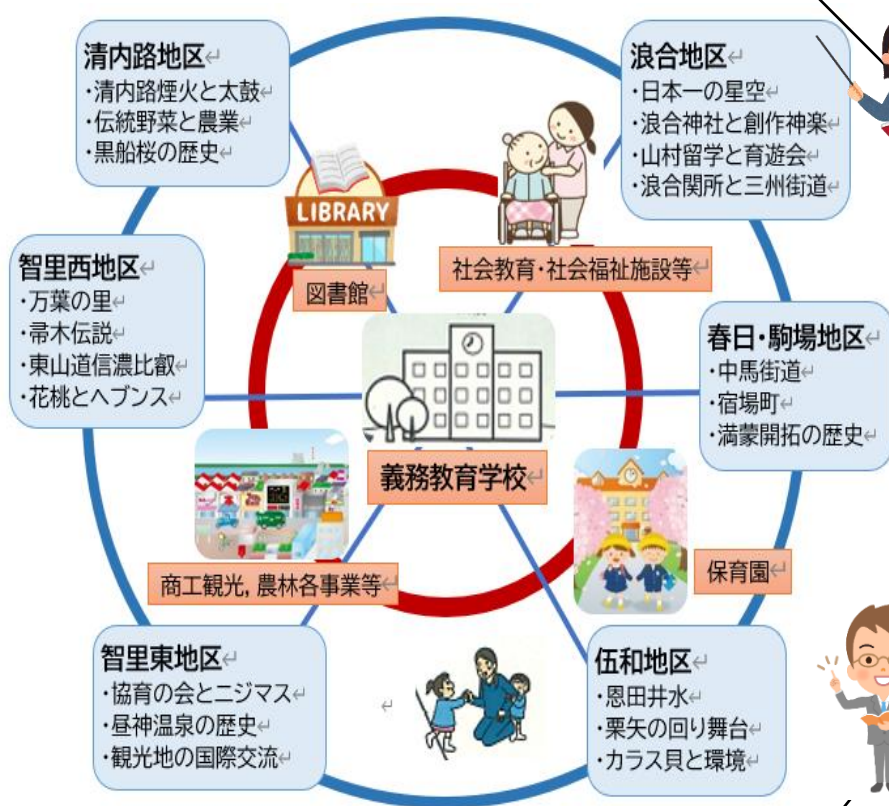
委員会の提言

- ① C案を基本方針とし、地域のみなさまと共に未来の学びを共に創り上げていく、阿智村らしい学校づくりを推進していく
- ② 新たに整備する義務教育学校の所在地については、既存の阿智中学校の校地・校舎を主に活用し、必要な教室や学びの多様化教室、地域交流スペース、小体育館、多目的小ホール、ランチルーム等の施設を増築し、必要に応じて用地を確保する

Q2 義務教育学校とは？

義務教育学校		
施設の形態	施設分離型（A 案）	施設一体型（B 案・C 案）
組織	1 人の校長，一つの教職員組織	
学年段階の区切り	小学校 6 年 中学校 3 年	4-3-2(前期-中期-後期) 4-5(前期-後期) など
教員の免許	小・中両方の教員免許保有を原則	
特 色	独自教科「あち探究学習(仮称)」	○調整が必要
	小中乗り入れ指導	△移動に課題
		◎

Q3 スクールコミュニティ構想とは？



学校を地域の拠点と位置づけ、行政・産業・保護者・地域住民が一体となり、大人も子どもたちと共に関係を育み合う仕組みです。地元の産業や観光、農業を学びに取り入れることで地域を理解し、将来の自分の役割を考える力を育みます。

地域の枠を超えた「学びのコミュニティ」を築き、阿智村全体をひとつの学びの場とすることを目指します。

春は智里西地区で花桃とヘブンス，夏は浪合地区で日本一の星空，秋は清内路地区の煙火と太鼓，冬は伝統の独楽づくりなど，季節に応じて学ぶことができます。

村内各地区の特色ある学びを体験し合い，児童生徒が自らの興味や関心を追究することで主体的に学びを広げ，地域のコミュニティの一員としての意識を育みます。

Q4 「あち探究学習(仮称)」の具体例は？

地区	春日・駒場	伍和	智里東	智里西	浪合	清内路
春	中馬街道	恩田井水	昼神温泉の歴史	花桃とヘブンス	浪合関所と三州街道	黒船桜の歴史
夏	満蒙開拓の歴史	カラス貝と環境	協育の会とニジマス飼育	東山道信濃比叡	気候を生かした農作物	清内路の伝統野菜
秋	宿場町	栗矢の回り舞台	下平井水	帚木伝説	日本一の星空	清内路煙火と太鼓
冬	独楽づくり	手作り豆腐づくり	湯谷守様とヤークー様	万葉の里と能舞台	創作神楽	たたきゴマづくり

